

## 2025 年度 日本照明賞 審査経過報告

## 1. 審査の概要

日本照明賞の審査は、事前審査で書類審査、プレゼンテーション審査、現地審査を経て、最終審査を実施した。プレゼンテーション審査ではアドバイザーに加わっていただいた。最終審査では外部団体の委員に加わっていただいている。

## 2. 日本照明賞審査委員会委員構成

審査委員会は、委員長 1 名、幹事 2 名、各分科会から推薦された委員、外部団体の委員によって構成されている。

表 1 日本照明賞審査委員会 審査委員とアドバイザー

役職	氏名	勤務先
委員長	原 直也	関西大学
幹事	岩井 彌	パナソニック(株)エレクトリックワークス社
幹事	伊藤 大輔	日本工業大学
委員	岩井 達弥	Lumimedia lab(株)
委員	落合 勉	照明文化研究会
委員	加藤 未佳	日本大学
委員	木下 史青	東京国立博物館 学芸企画部
委員	小林 茂雄	東京都市大学
委員	佐藤 利文	東京工芸大学
委員	橋本 篤	三重大学
委員	矢嶋 純	東芝ライテック(株)
外部委員	西原 隆史	一般社団法人日本照明工業会
外部委員	堀内 隆彦	一般社団法人日本色彩学会
外部委員	内田 暁	一般社団法人電気設備学会
アドバイザー	大久保和明	(株)システムズエンジニアリング
アドバイザー	竹下 秀	東海大学

## 3. 審査スケジュール

- ① 10月31日に応募を締め切り、今年度の応募は4件であった。
- ② 11月7日に事務局より各委員に推薦書と説明資料一式を配布し、事前審査を依頼した。事前審査結果は自由書式とし、各委員からの事前審査結果を幹事がとりまとめた。

事前審査結果提出後のスケジュールは以下のとおり

委員会開催 12月10日

プレゼンテーション審査 1月23日

プレゼンテーション審査後の追加資料提出依頼と検討期間

候補者依頼 1月23日→提出期日 1月30日

委員会提出 1月30日→回答期日 2月7日

委員会開催 2月20日

現地審査 3月13日

最終審査 4月14日

表彰委員会報告 4月15日

理事会で決定 4月18日

#### 4. 審査結果

業績名：LEDに基づく測光・放射量計測用標準光源の開発－標準電球100年の歴史への挑戦

種別：製品開発

受賞者：神門賢二，木下健一，中澤由莉

(産業技術総合研究所 計量標準総合センター 物理計測標準研究部門)

山路芳紀，松岡真也，小出直正

(日亜化学工業株式会社 商品開発本部)

石田幸平，藤木 藍

(日亜化学工業株式会社 品質保証本部)

業績の特徴

白熱電球の製造終了により標準電球の生産も中止され、標準電球に基づく測光・放射量の校正体系の維持が困難となっている。本業績はその課題を克服するために研究機関と企業が互いの得意領域を分担し、2005年から20年近くLEDに基づく測光・放射量計測用標準光源の開発を行ってきた。他国研究機関でもLED標準光源の開発は進められているものの、研究段階で留まっているものがほとんどである。本業績では、いくつかの課題は残っているものの、LED標準光源の販売にまで至ったことは高く評価できる。国内だけではなく世界の照明業界をリードする優れた業績である。

業績名：ES CON FIELD HOKKAIDO ～スポーツエンターテイメントのあかりが街をつくる～

種別：製品開発，計測・制御技術，施設

受賞者：

企画・計画チーム

森野貴史(株)ファイターズ スポーツ&エンターテイメント)

杉本弘道(株)大林組)

設計・施工チーム

瀬戸口 仁，中本明季，村上伸平(株)大林組)

開発・検証チーム

栗本雅之，猪股 寛，渡邊 拓海(パナソニック(株) エレクトリックワークス社)

業績の特徴

「プレイヤーファーストに基づく最適な光環境」，「光・映像・音響による非日常体験」，「街のランドマークとして内・外の光を繋ぐ」ことをコンセプトに，地域コミュニティの創造起点となる光空間を実現している。スタジアム照明はDMX512による制御システムにより，調光を自在に制御することで，

競技用照明の照明器具を演出照明にも活用している。さらに演出照明と、大型ビジョンや音響設備との連動により球場全体に一体感を与える大迫力の演出を実現している。またバックヤードの充実した施設も、機能性だけでなく、チームの一体感や選手の高揚感を高めるチームカラーの“ブルーの照明”を要所に取り入れ、選手だけでなくスタジアムツアーに参加したファンも楽しめるように照明で演出されている。競技・演出・都市景観を融合した持続可能な照明環境を実現し、スポーツ施設として世界に誇りうる優れた業績である。

以上